

## データから部屋探しの現状を探る

問い合わせの翌日までに契約が約3%  
ネットでは物件の写真情報を重視

KEY WORD

部屋探し

ここ数年、インターネットで部屋探しをする人が増え、成約に至る期間に大きな変化が出ています。その変遷は、物件探しに関するアンケート結果にもはっきり表れています。最新の統計データから、部屋探しの現状と変化の要因について探ります。

## 動画で内見時のギャップ減少

RSCのアンケートで「不動産会社に求めるもの」には、「正確な物件情報の提供」が87・3%で1位。「不動産会社に対しての不満や満足」は「問い合わせをしたら」そ

の物件はもうない」といわれた」が28・4%で1位でした。どちらも、おとり広告などに対する警戒感や不満が最も高くなっています。

おとり広告がなければ、インターネット上だけで部屋探しが可能となります。そのため、ポータルサイトに掲載する物件写真の重要性がますます高まってきました。

リーシング・マネジ  
メント・コンサルティ  
ング（東京  
都港区）の  
齊藤晃一社  
長は、「写真の多い物件ほどポータルサイトに掲載されるため、不動産

仲介会社は競うように多数の写真アップロードし始めた。360度のカメラ画像や内見動画なども普及し、内見時とのギャップが少なくなってきた」と話します。

物件写真が重要であることは、RSCのアンケート結果

にも表れています。「物件を探す際に必要だと思うもの」は、上位10位中9項目が「写真」となりました（グラフ2）。ユーザーが求める情報を重視したことも、成約期間の短縮につながっているといえるでしょう。